



～県議会議員 関本まさきの県政報告～

発行責任者：関本真樹
大和郡山市小泉町3304-12

携帯：080-6215-0287
E-mail: mightgaine5625@yahoo.co.jp

2023年夏号

奈良県議会について

4月の統一選挙で市議から県議にステップアップさせていただき、5月に臨時議会、6月に初の定例議会を迎えました。同じ地方議会でも細かなところで違いがあり勉強の日々なのですが、近くて遠い県議会について、これから定期的にできる限りかみ砕いてお知らせしていこうと思います！

さて、県議会には5つの常任委員会があり、それぞれ下記のような事柄を所管しています。

総務警察委員会・・・知事給与や職員待遇、選挙関連費用や個人情報保護関係、警察官や警察署などの施設関連、歳入や防災関連等の事項について

厚生委員会・・・障害福祉、ワクチン接種、子ども医療費助成、民生・児童委員等について

経済労働委員会・・・中小企業支援、林業・農業振興、観光総合戦略、奈良競輪等について

建設委員会・・・まほろば健康パーク、道路や河川の管理、県域水道一体化、都市公園等について

文教くらし委員会・・・県立高校・中高一貫校、特別支援学校、スポーツ施設、奈良マラソン、なら歴史芸術文化村、文化会館、ムジークフェストなら等について

ちなみに私は文教くらし委員会に所属しています。この委員会では上記に加え、GIGAスクール構想や部活動の地域移行など小中学校の事も取り上げることができます。どんな議案が付託されたり、どういった内容の質疑が交わされているかは県議会のホームページから見ていただくことができますので是非一度ご覧いただければと思います。

6月議会報告(要点抜粋)

■6月の定例会において山下知事から出された議案は、物価高騰対策や知事が公約した内容である不妊治療の助成拡充についての補正予算なども含めて全て可決、順調な滑り出しとなりました。

■会派：日本維新の会が提出した議員報酬2割削減の議案ですが、委員会付託を希望するも拒否され、議論されることもなく否決されました。従来より、奈良県議会は議員報酬の1割削減を続けてきましたが、改選に伴い切れています。過半数を占める自民党・無所属の会からは代案として1割削減の議案を出されることもありませんでした。私たち日本維新の会県議団は引き続き、独自で身を切る改革を続けていきます。

■また、五條市の防災拠点や大和平野中央田園都市構想などの見直しが大きく報道されていますが、大和郡山市内においては中央卸売市場の再整備とまほろば健康パークの公園拡張が見直しとなりました。今後は関係者等からも意見を聴取し、規模や内容を精査した上で再整備の検討を進めていくこととなります。私も、地元の声や奈良県、そして大和郡山市の発展の為にはどうしていくべきかも踏まえて先進事例なども研究しながら積極的に提言を行ってまいります！！

ニュースの感想、奈良はもっとこうなればいいのに！といったご意見やお困りごとなどなんでもお寄せください。SNSやホームページも是非ご覧ください！



文教くらし委員会質疑より

奈良県議会では申し合わせにより、ざっくりですが基本的に一般質問は1人につき年1回となっており、市議会では定例議会ごとに一般質問をしていたので発言の機会が大きく減ることとなってしまいました。ですが、それを嘆いていても仕方がないのでその分常任委員会での質疑に力を入れていきたいと思います！

各常任委員会においては「その他質疑」という項目の時に、出された議案や報告事項などとは全然別の内容について、委員会の所管する事項であれば質疑をして提言を行ったりできます。要は分野は限られるが一般質問と同じようなことができるわけです。ちなみに、細かい運用は違いますが市議会でも所管質疑という名前で同じことをすることができます。以下、6月29日の文教くらし委員会で私が行った質疑の抜粋です。



国際中学校が国際バカロレア（IB）の候補校として令和5年4月に開校した。年間スケジュールを見ると一般的には定期テストが実施される時期に個人探求週間と記載されているが、この内容も含めて、市町村立の中学校との教育課程（カリキュラム）の違いについて教えてください。

言語と文学、個人と社会など8つの学習領域があるが、内容は学習指導要領と大きく相違なく、同じ検定教科書を使用している。主な特色としては英語の教科について、英語を母語とする教員等による少人数、習熟度別の授業をしている。個人探求週間にはフィールドワークを行ったり、ゲストティーチャーを招いてアクティブラーニングを実施し、主体的、探究的な学びを推進している。



国際中学校、高等学校では定期テストを実施しておらず各教科の単元ごとに単元テストを実施。もう一つの県立の中高一貫校である青翔中学校、高等学校でも中間テストの代わりに単元テストを行い、期末テストのみ実施しており、それ以外の県立高校でも単元テストを実施しているところがあると聞いている。単元テストはどういった趣旨で導入されているのか。

定期テストは直前期だけの学習を誘発したり、つめこみ、暗記になりがちである。単元ごとにテストをすることで自身の習得度合いの把握や振り返りがしやすいと考えており、現場の先生からも生徒のつまづきが発見しやすいという声があがっている。また、生徒の成績についてはペーパーテストだけでなくレポートやグループディスカッションなど多面的に評価をするようにしている。



南部・東部地域での読解力向上プロジェクトについて、経年で効果測定ができるよう、まずは今の子どもたちの読解力を測定し、現状にあったレベルでの読解力向上の取組を進める必要があると思うが、教育長の考えは。

今の子どもたちは飛ばし読みをする傾向があるとされており、まずはしっかりと読書ができるようにする。そして今年の10月から12月にかけてリーディングスキルテストを実施し、その結果を基に現状に合った読解力の向上施策を実施したい。



■まとめ 単元テストについてはさらなる知識定着に向けての提言を行いました。読解力向上については学力向上のためにも重要なので引き続き進捗を追いかけます！